

2020年附設展示予定 参考一覧

学会・展示会名	大会長	会 期		会 場	申込締切 (予定)	料 金 例	前年 出展数	参加人数 (予定)	特長 (学会HP等より抜粋)
		始	終						
★ 第93回日本細菌学会総会	荒川 宣親 (名古屋大学大学院医学系研究科分子病理細菌)	2月19日(水)	2月21日(金)	ウイंकあいち	2019年 11月20日 (水)	¥150,000	18社/ 20小間	1,000名	細菌学、真菌学、感染症学、生体防御・免疫学、感染疫学、環境微生物学、ワクチン・抗菌化学療法などの予防・治療医学を中心に、医学系・歯学系・薬学系・農学獣医学系・理学系・生命工学系などの幅広い領域の多彩なテーマを学際的に取り扱っています。
★ 第93回日本薬理学会年会	五嶋 良郎 (横浜市立大学)	3月16日(月)	3月18日(水)	パシフィコ横浜 会議センター	2019年 12月15日 (日)	¥200,000	70小間	2,300名	薬理学は、化合物と標的との相互作用に基づき生命現象にアプローチするという独自の視点のもとに、薬物や生理活性物質の生体への作用を総合的に理解する生命科学の分野として発展してきました。2020年の年会テーマは「薬理学を一つの舞台に」です。
★ 日本農芸化学会2020年度大会	酒井 謙二 (九州大学大学院農学研究院)	3月26日(木)	3月28日(土)	九州大学 伊都キャンパス	2019年 12月13日 (金)	¥210,000	92社/ 118小間	5,000名	日本農芸化学会大会は生命食環境の3つのキーワードに代表される「化学と生物」に関する基礎から応用までの幅広い研究成果を発表する場であり毎年開催されています。
★ 日本ゲノム編集学会第5回大会	堀田 秋津 (京都大学iPS細胞研究所)	6月15日(月)	6月17日(水)	京都大学 百周年時計台記念館	4月14日(火)	¥250,000	24社/ 25小間	400名	ゲノム編集は、人工のDNA切断酵素を利用して、様々な生物において自在に遺伝情報を変化させることのできるバイオテクノロジーであり将来産業価値が高い分野です。一方で、ゲノムを改変した生物に関する倫理的な問題も存在し、そのスタンダードを構築する必要性が生じています。このような状況から、研究者および社会の要求を満たすための学会組織が必要と考え同学会を立ち上げられました。
★ 第2回在宅医療連合学会大会	三浦 久幸 (国研) 国立長寿医療研究センター)	6月27日(土)	6月28日(日)	名古屋国際会議場	3月10日(火)	¥200,000	40社/ 50小間	4,500名	在宅医療連合学会大会は医師、看護師、介護士、薬剤師、作業療法士など多職種からなる医療従事者が参加します。これから増えるであろう長期入院が必要な患者さんの受け皿、また理想の最期の迎え方として、自宅で療養を行う在宅医療が注目されています。
★ 2020 World Conference on Protein Science 第20回日本蛋白質科学会年会	養王田 正文 (東京農工大学)	7月7日(火)	7月10日(金)	札幌コンベンションセンター	3月16日(月)	¥250,000	40社/ 50小間	1,000名	2020 World Conference on Protein Society (2020WCPS)は米国に拠点を持つPS、アジアをまとめるAPPA、日本のPSSJの3つの組織の合同開催となる。クライオ電子顕微鏡とX線自由電子レーザーは構造生物学の新たな時代を開拓しつつあり、単一細胞レベルの分解能で見る染色体構造の動的変化や、ゲノム解析は疾患の理解と予防、治療にあたらな潮流となりつつある。さらに、オプジーボなどの抗体医薬は医療に革命を起こしており、抗体と抗体医薬のターゲットとなる蛋白質の研究は医薬品開発において益々重要となっている学会です。
★ 第41回日本炎症・再生医学会	亀田 秀人 (東邦大学)	7月8日(水)	7月9日(木)	京王プラザホテル	3月13日(金)	¥150,000	10社/ 10小間	600名	本学会は、基礎、臨床の様々な領域の研究者が「炎症」と「再生」をキーワードに一堂に会する学際的な大変意義のある学会であり、異分野の先生方の交流から新しい発想が導き出されることを望みます。(会長挨拶より)
★ 第43回日本神経科学大会	北澤 茂 (大阪大学)	7月29日(水)	8月1日(土)	神戸コンベンションセンター	4月17日(金)	¥250,000	80社/ 122小間	3,000名	大会テーマはTheories of the brain (脳の理論) です。「理論」が複数形になっているのは神経科学の学際性を反映しています。分子、細胞、局所回路から脳全体のシステムという研究対象の広がり、運動・感覚から意識のような高次の認知機能に至る機能の広がり、分子生物学・心理学・生理学・数理学といった手法の広がり、その広さは他のどのような学問分野もかなうものではありません。あらゆる手法を貪欲に取り込んで、現在進行形で発展し続けている領域が、神経科学なのです。(大会長挨拶より)
★ 第72回日本生物工学会大会	中山 亨 (東北大学大学院 工学研究科 バイオ工学専攻)	9月2日(水)	9月4日(金)	東北大学 川内キャンパス	6月26日(金)	¥200,000	48社/ 56小間	1,600名	発酵工学/微生物を対象とした有用物質の生産、食品工業等への応用的研究と基礎学理●生物化学工学/培養法の確立、培養装置の開発・設計、発酵プロセスの制御、生産物回収のプロセス等生産プロセスを対象とした化学工学的研究●生体情報工学/生物における情報の処理機構を解明し人工手段で実現し、活用する工学●環境工学/地球環境、人間環境にかかわる諸問題の工学的改善●酵素工学/酵素の改良、人工酵素の作成および酵素を利用した化学反応系とセンサーの構築●動植物細胞工学/動物細胞、植物組織・細胞による物質生産の基礎と応用●生体医用工学/工学的手法の医学領域への応用による診断、治療などに必要な医療システムの開発研究
★ 第93回日本生化学会大会	深見 希代子 (東京薬科大学生命科学部)	9月14日(月)	9月16日(水)	パシフィコ横浜 ノース	6月15日(月)	¥250,000	62社/ 82小間	3,000名	生化学会は、生物分野の学会としては、最も歴史と権威がある学会の一つであり、タンパク質、脂質、代謝物、細胞などを中心に幅広く生命科学のウエット研究者が参集する学会です。2020年はパシフィコ横浜ノースという会議棟と展示棟が一つの建物内で行われ利便性が高くなることが考えられます。
★ 第58回日本生物物理学会年会	大澤 研二 (群馬大学大学院理工学府)	9月16日(水)	9月18日(金)	Gメッセ群馬	6月1日(月)	¥250,000	34社/ 37小間	1,500名	生物物理学会はたんぱく質の構造解析・細胞の機能解析や可視化などについて技術メカニズムを理解した研究者が多く参加しています。
★ JASIS2020 ライフサイエンスイノベーションゾーン	杉田 隆通 (株)島津製作所)	11月11日(水)	11月13日(金)	幕張メッセ	5月29日(金)	¥100,000	100社/ 120小間	全体 24,000名 LSZ 14,000名	JASISライフサイエンスイノベーションゾーンは、生命科学分野での産業創成を目指し、2013年より8年目を迎え、ゾーン参加者約1.5万人と、成長中の展示会です。特徴は、基調講演と企業展示、企業プレゼンが同じゾーン内にあり、聴講者とマッチングできる可能性が高いメリットがあります。
★ JAACT2020 (日本動物細胞工学会)	三浦 豊 (東京農工大学)	11月17日(火)	11月20日(金)	府中の森芸術劇場	8月21日(金)	¥220,000	38社/ 43小間	300名	『動物細胞工学の進歩と普及を図る』ことを目的とした、「先端と産学共同」、「国際と学際」、「企業活動を援助する」、「実用重視」のユニークな学会です。生物工学、農芸化学、細胞生物学、生物化学工学等、様々な学問領域から構成される学際領域です。動物細胞を用いたバイオ医薬品生産において重要な「物質生産」に関わる細胞構築技術や、「食と健康」などが二つの大きな柱となっています。
★ 第43回日本分子生物学会年会	上村 匡 (京都大学)	12月2日(水)	12月4日(金)	神戸国際会議場・展示場	6月8日 (月) 7月17日 (金)	¥355,000 ¥370,000	193社/ 312小間	7,500名	分子生物学に留まらず、ゲノム、タンパク質、細胞、疾患、バイオインフォマティクスなど、ライフサイエンス研究者が一同に集う、日本最大のバイオの学会です。

その他、受託数学会あり

☆印は㈱エー・イー企画が学会運営

★印は㈱エー・イー企画が展示会運営

※社数は展示出展社のみ数になります